

はしの なし

第13稿 打越橋ものがたり

「はしのはなし」では、皆さんに横浜の橋の歴史や小話を、定期的に紹介していきます。第13回目は、打越橋について。

打越橋は横浜市内に現存する震災復興橋梁40橋の1橋であり、土木学会の選奨土木遺産にも選出された歴史的に価値のある橋です。

そんな打越橋の誕生から現在までを小話をしていきましょう。

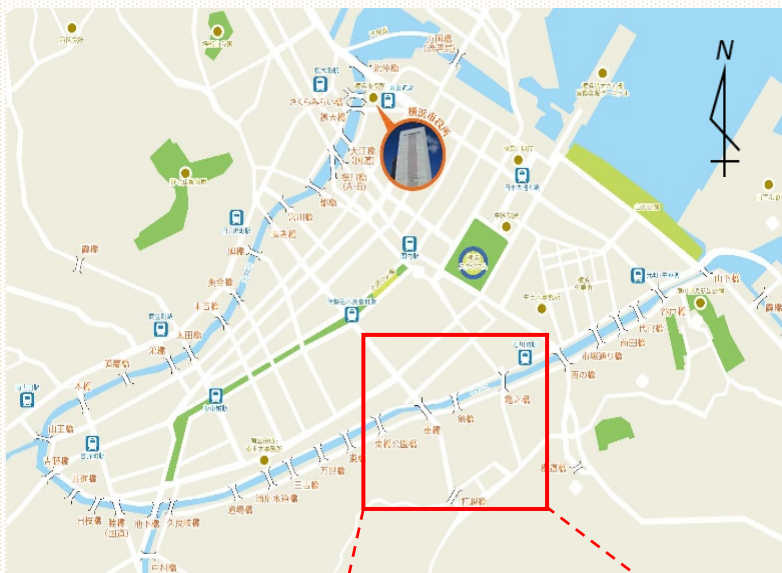
1 打越橋はどこにあるのか？

打越橋は、下図のとおり西区の高島（国道1号）から中区根岸町に至る横浜駅根岸線を跨道する橋です。

打越橋のアーチは中央が大きく端部にいくにつれて小さくなっており、アーチと法面の間に空間があることからすっきりしたフォルムが特徴的です。

【打越橋の諸元】

- ・名称：打越橋(うちこしはし)
- ・所在地：中区打越3番地先
- ・橋長：38.37m
- ・幅員：8.6m
- ・竣工：昭和3年(1928年)
- ・橋種：上路式鋼ランガー橋



a 打越橋の位置図



b 北側から見る打越橋



晴れた日には青空との鮮やかなコントラストが見れます。

2 打越橋はなぜ架けられたのか。

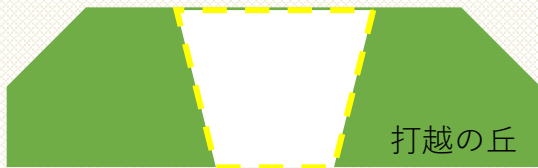
関東大震災を受け、昭和3年（1928年）8月に震災復興計画の一部として、打越の丘を南北に切り通し、その道路に山元町を終点とする市電が開通しました。切り通しには打越橋が架けられ、山手と南区唐沢方面とを結びました。

当時の新聞では、開通式に市長及び各局長が出席したことや打越橋の高さが当時の橋としては高かったことなどが書かれています。また、開通式の様子も載せられており、橋の上からの見物人も多く、注目度が高かったことが分かります。

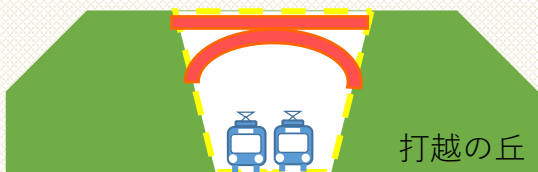
①切り通し前



②切り通した後



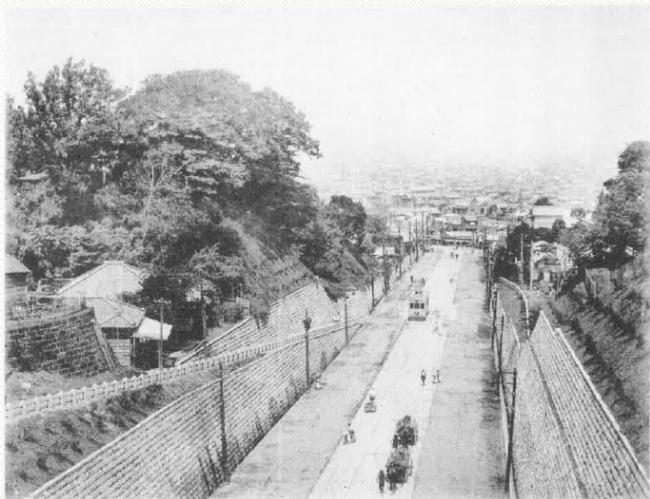
③打越橋架設及び市電開通



c 打越橋が架かるまで



d 当時の新聞記事



e 市電が通っていた当時の打越橋上から南側



f 現在の打越橋上から南側

現在でも当時の面影が残っており、みなとみらいにあるランドマークタワーを眺望することができ、横浜が発展してきているのが分かります。また、市庁舎も少しだけ見えますので、気になる方はぜひ。

3 打越橋の色は最初から赤なのか。

打越橋は現在、赤色で目立っていますが、竣工当初から赤色だったのか、と言われるとそうでもないかもしれません。

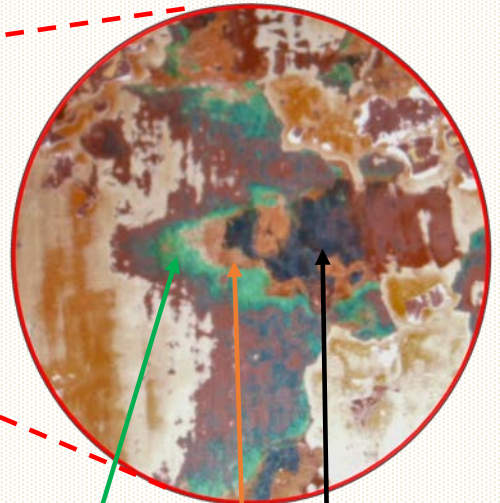
令和2年度に老朽化に伴い、塗装劣化が著しかったため、塗装をぬりかえています。その際に、緑色の塗膜が確認できました。竣工当時、赤色の塗料は、現在と同様に値段が高かったと考えられます。また、竣工当時のモノクロ写真を見ると、赤色というよりはもう少し濃い色だったように見えます。打越橋が緑色だとすると、写真iのようになります。これらを踏まえると、緑色だったのではないかと思います。

筆者の個人的な意見にはなりますが、赤色の方が見た目が鮮やかで良いと思いました。



g 塗替工事の施工中写真

記録が残っていないため、想定にはなりますが、鋼材の地肌から順に、黒皮（黒色）、錆止め塗料（オレンジ色）、中・上塗り塗料（緑色）となっております。緑色の塗料が塗られていた可能性があります。



黒皮

錆止め塗料

中・上塗り塗料



h 現在の打越橋



i 現在の打越橋(朱色)を緑色に加工したもの



j 現在の打越橋(朱色)をモノクロに加工したもの



k 竣工当時の打越橋

4 震災復興橋梁（アーチ編）

最初に述べている通り、打越橋は横浜市に現存する震災復興橋梁40橋の1橋ですが、他にも同じアーチ橋の橋があるのでご紹介します。



l 霞橋（昭和3年竣工）
西区霞ヶ丘56番地18地先



m 櫻道橋（昭和3年竣工）
中区麦田町1丁目13番地先



n 西の橋（大正15年竣工）
中区山下町276番地先



o 谷戸橋（昭和2年竣工）
中区山下町37番地8地先



p 長者橋（昭和3年竣工）
中区長者町9番地176地先

5 おまけ

打越橋は、上部工の設計及び製作は横浜船渠（現在の三菱重工株式会社）が行っています。漢字を見て分かる通り、造船を専門とする会社ですが、不況対策のために橋梁製作等を行っていたそうです。造船技術（鋼を加工する技術等）に長けている横浜船渠だからこそ打越橋という複雑な橋梁の部材を製作できたのかもしれない。